



【先々週のメッセージより】 ルカ1:5~25, 57~80

「ザカリヤの礼拝／不信仰から信仰へ」

●ザカリヤ

ザカリヤの名前は「ヤーウエは覚えておられる」という意味だが、ザカリヤとエリサベツは長年、子供を願っていたにも関わらず、その願いは聞き届けられていなかった。神殿の奉仕の最中にザカリヤは天使から子供を授かるとの約束を受けるが、不信仰が邪魔し、彼はすぐに感謝しますと言えなかった。その不信仰の罰として彼は口が利けなくなってしまった。

●エリサベツ

エリサベツの名前は「私の神は約束を守られる」という意味である。ザカリヤもエリサベツも確かに子供のことはがっかりしてはいたものの、なお、忠実に主に仕え続けていた。主は、忠実に仕える者たちに対して祝福の約束を多く与えておられる。バプテスマのヨハネが体内に宿った時、正に「約束を守られる」という「エリサベツ」の名が実現に至った。



●ヨハネ

ヨハネの名は「ヤーウエは豊かに与えられる方である」という意味である。ザカリヤとエリサベツはまさにヨ

ハネが与えられたことでヤーウエが豊かに与えられる方であることを経験したのであった。

●ザカリヤ一家から私たちが学ぶべきレッスンは何か。それは

1) 祈り続けること…なぜ？

ヤーウエは覚えていらっしやう、忘れることがないから。

2) 信じ続けること…なぜ？

私の神は約束を守られるから。

3) 神の真実を体験したなら、神の素晴らしさを証ししよう！…

私たちが忠実に祈り続けるなら、ザカリヤ一家にヨハネが与えられたように、私たちも、神が祈りに答えて下さる方であることを必ず体験するようになる。その体験こそ、私たちの証しとなって行く。それを携えて主をほめたたえたい。

【先週の暗唱聖句】 わがたましいは主をあがめ、

わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。 ルカ1:46-47

●この「あがめ」とある部分がラテン語ではマグニフィカトである。英語の「Magnify/拡大する」の語源である。礼拝は心の中で神を大きくすることであると言えよう。神が大きくなり、自分が相対的に小さくなって行く時、始めて人生の「ピント」が合ってくるのである。■

【先週のメッセージより】 ルカ1:26~56

「マリヤの礼拝／へりくだって神を礼拝する」

この聖書の箇所から三つの大切な宣言に注目したい。

●「神にとって不可能なことは一つもありません。」37節

御使いがマリヤに対して語った言葉であるが、神はマリヤだけでなく全てのクリスチャンがこのことを知るようになることを願っておられる。私たちが様々なことを祈り、主がそれを聞いてくださるのを体験するにつれて、私たちの常識はだんだんこの御使いの言葉に近づいて行き、それと同時に、世の基準からはずれて行く。主にあって常識外れになることを私たちは覚悟しておくべきである。

●「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」45節

エリサベツがマリヤに対して語った言葉である。この言葉が私たちの内に実現するために、先ず必要なのは、私たちが御言葉を心に蓄えることである。デボーションの習慣を身に付けること、グループ聖研への定期的な参加を是非勧めたいのはこのためである。次に信じきる、というのは、1) 疑いを捨て、2) 自分の知性、悟りに頼

ることをやめ、3) 実現するまで待つ覚悟をすることである。

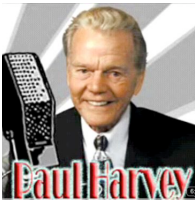
●「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりにこの身になりますように。」38節

マリヤはこの言葉を持って自分自身を神の計画に委ねたのである。彼女は御使いの宣言により、既に自分がメシヤ／救い主の母となることを理解していたが、どのような状況になっても神が全てを実現に導かれることを心の内に信じた。その信じた内容が、マグニフィカト、讚美歌となって彼女の口からほとばしりてたのである。

●本当のへりくだりとは

この話しを煎じ詰めると、神の御前での真のへりくだりとは何かが見えてくる。それは神が語られたことを100%額面通り信じ、更に信じた内容に沿って行動し、約束は必ず実現する確信しながら歩み続けることであり

表面的なへりくだりのことではないのである。



PAUL HARVEY, THE MAN AND THE BIRDS

ついに見つけました！牧師が最も好きなクリスマスストーリー…是非、英語の聞き取りチャレンジとして、お聞きください！

★<http://www.youtube.com/watch?v=ddai8rkXWRs>

グリニッチ便りに載せたこのお話しの翻訳は以下の通り：

★<http://jgclmi.com/gwdayori20041225.htm>